

行事報告

バリアフリー法改正学習会報告

米田 進一

去る9月24日(月・祝)に於いて、西宮市若竹文化会館で「バリアフリー法改正学習会」が開催されました。当初の予定では7月7日に開催する予定でしたが、西日本を覆う大雨により、交通網も麻痺していた事も影響し、順延となり今回の開催に至りました。その報告をしたいと思います。

二ヶ月半遅れで開催となった「バリアフリー法改正学習会」には、福祉のまちづくりに精通しておられる三星昭宏氏をはじめ、当事者サポーターとして、アクセス問題に精力的に取り組まれている大阪頸損連の鈴木千春さん、障大連から中村香子さん、NPO 法人ちゅうぶの石田義典さん、自立生活センターリアライズの岡田憲幸さん、鎮西(ちんぜい)雄太さんらをお招きし、障害当事者としてバリアフリー問題をどのように捉え、改善に向けてどんな行動を起こすべきかを語って頂きました。

三星先生は「バリアフリー改正法」に大きく関わられた識者で、バリアフリー課題の問題解決に精通されています。長年この問題に携われ、国会の参考人としても活躍されています。お話では「当事者参加・参画の強化と評価システムづくり」「バリアフリー情報強化」「連携の強化」「公共交通事業者などが主体にハード・ソフト一体的取り組みをする」「国民の責務」「公共交通対象の拡充」等を語られました。こういった活動も「我々当事者が声を挙げ賛同すべきである」と訴えられました。

障大連の中村香子さんは「無人駅」について話され、障害者差別とバリアフリー法の問題として、結果的に無人駅を無くしていくには、地域ぐるみで行政に向けて運動を起こす事が最も近道であると述べられました。行政が交渉を拒んでいる理由の一つとして、「お金がない」と結論づけられた事でした。障害者ならびに地域住民、行政、事業者が「協働的」な無人駅問題解消へ向けた取り組みが必要である事を強調されました。

自立生活センターリアライズの岡田憲幸さん

も同じく「無人駅」の調査に取り組み、南海電鉄に於いて無人駅での困難さ等を自ら実証されました。地元で自治会長達と、継続的な会議や地域の人への駅の利用調査アンケートを実施する等、だった交通バリアフリーに取り組むに当たり大事な事は、「諦めない」「止まったり後退しても落ち込んだりやる気を無くさず、粘り強く構える事が重要だ」と話されていました。

自立生活センターリアライズの鎮西雄太さんからは「柵」について話され、公園の出入りに設置されている車止めや柵を調査され、「ハートフルゲート」という円形状の柵の説明やアンケート調査の活動をされています。その結果、ゲートの大きさで大型車いすが通行出来ない事が問題となり、これらの課題が解消される様な取り組みを続けたい旨を話されていました。

NPO 法人ちゅうぶの石田義典さんは、「サイン案内表示」について取り組み、私達も実際経験があると思うのですが、主要都市等多くの電車を利用する際、エレベーターの位置を把握している方は少ないと思います。石田さんは今回、大阪のなんばを中心にエレベーターの位置を分かり易く表示する為、3日間に渡り連絡ビル等の協力も得て約160箇所のエレベーター表示を貼った事で、改善された結果、ほぼなんば全域のエレベーターの位置が明確になりました。お陰で迷い無く利用し易くなったと思います。

大阪頸髄損傷者連絡会の鈴木千春さんからは「段差解消」について提言があり、大阪地下鉄の千日前線・長堀緑地線・今里線では、段差解消がなされていて、スロープ無しで車いすの乗降がスムーズに出来るそうです。車いす単独で降りたい時に降りられる安心感はとても嬉しいですね。

まだ多くの路線では、駅の対応が遅く不便な事もあり、まちづくりやバリアフリー問題の解決に向けて、私達が今後の活動に活かしていくかが課題となり、更なる目標として「諦めずに取り組んで行く事」が重要ではないでしょうか。